

名古屋市営交通事業経営計画2028（案）に対する 市民意見の内容及び交通局の考え方

名古屋市営交通事業経営計画 2028(案)に関する市民意見募集に対し、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ご意見は、経営計画及び今後の事業運営の参考とさせていただきます。

みなさまからいただいたご意見と、それに対する交通局の考え方を公表します。

なお、ご意見は必要に応じて原文を要約または分割・統合し、類似した趣旨のものは取りまとめて掲載していますので、ご了承ください。

令和6年3月

【募集結果】

募集期間	令和6年1月4日（木）から2月4日（日）まで	
意見提出人数	219人	
提出方法	郵送：25人	電子メール：19人
	FAX：1人	LoGoフォーム：169人
	持参：5人	
意見数	785件	

【意見の内訳】

項目		意見数
1	理念・計画目標	26件
2	施策及び事業	679件
	(1) 施策1 安全・安心の推進	107件
	(2) 施策2 快適性・利便性の高いサービスの提供	400件
	(3) 施策3 まちの将来に向けた行動	44件
	(4) 施策4 持続可能な経営の確立	128件
3	その他	80件
	合計	785件

1 理念・計画目標（26 件）

ご意見の 要旨	・安全・安心の確保は交通事業者としての基本であり、最も重要な使命。 ・安全性や利便性・快適性向上に努め、市営交通の魅力を高めてほしい。 ・よい計画だと思う。サービス向上やまちづくり、収入増加を期待する。 ・減便や混雑による利便性や快適性の低下は自動車利用への移行につながるため、利便性と快適性の向上による利用者の増加を目指すべき。 ・近年は減便やバス路線の廃止もあり、厳しい経営状況の中でサービス水準を維持してきたという記述には賛同できない。 ・他都市の状況や名古屋市における交通政策の歴史などを分析した上で、名古屋市の交通体系が抱える課題を明示すべき。 ・経営状況の悪化による路線の廃止などが進むことを恐れている。名古屋市交通局の強みである利便性の高い路線網を今後も維持してほしい。 ・単なる移動手段ではなく、市バス・地下鉄に乗って楽しいと感じられるようにエンターテインメント性を高めることが重要。 ・社会構造上必然的な利用者の負担増は、交通事業の永続的な運営のためであれば我慢したい。 ・支出額の大きな事業が多いと感じる。限られた収入のなかで事業を実施するならば、優先順位を決めて取り組むべき。 ・赤字であることを当然だと思わず、公営企業として、経済性を発揮し利益を上げられる経営を目指すべき。 ・減便などにより利便性を低下させてまで、交通事業単体での収支の黒字化にこだわる必要はない。 ・少子高齢化の進展や名古屋市の観光客数の動向などを考慮すると、乗車人員が今後増加するとの見通しや令和元年度と同水準の乗車人員を目指すという目標は現実離れしているのではないか。 ・集客施策の効果が出るには時間がかかるため、令和 10 年度までにバス事業を黒字化することは難しいのではないか。 ・計画目標はターゲットをより明確に絞って設定したほうがよい。 ・現行の経営計画の目標達成状況や進捗に関する総括を記載すべき。
交通局の 考え方	交通事業を取り巻く状況が大きく変化する中で、非常に厳しい経営状況となっていますが、一般会計の支援などを受けつつ、公営企業として企業の経済性を発揮することにより、市バス・地下鉄の一体的なネットワークによる運行サービスを提供し、市民生活を支えることができるよう、“安全・安心、快適・便利な交通サービスを提供する”という変わらぬ使命を果たすとともに、持続可能な経営の実現に向け、計画目標を達成できるよう努めていきます。

2 施策及び事業（679 件）

（1）施策1 安全・安心の推進（107 件）

ア 輸送の安全性の向上（12 件）

ご意見の 要旨	・ QR コードによる開閉システムなどの新技術も活用し、全駅への可動式ホーム柵の設置を早期に実現してほしい。 ・ 安全性により一層配慮し、安全で快適な運行を心がけてほしい。 ・ これまでの交通局での不祥事などを記した上で、再発防止の具体的な取組みを計画に明示すべき。 ・ 安心して利用できるよう、安全に関する教育に力を入れてほしい。 ・ 指差確認称呼を徹底し、安全な運転を心がけてほしい。 ・ 乗務員の健康管理と乗務員への思いやりが安全確保につながる。
交通局の 考え方	市バス・地下鉄を安全に、安心してご利用いただけるよう、可動式ホーム柵の整備などの投資を進めるとともに、安全に関する教育・訓練を引き続き実施し、輸送の安全性の向上を図っていきます。

イ 災害対策・セキュリティ強化（24 件）

ご意見の 要旨	・ 地下鉄構造物の耐震補強を早急に進めてほしい。 ・ 緊急地震速報を受信すると車両が自動停止するシステムにしてほしい。 ・ 地震の発生を利用者に幅広く知らせるシステムを構築してほしい。 ・ 有事の際の避難場所にできるよう、地下鉄駅の耐震化や緊急時のための備蓄を進める必要がある。 ・ 想定を超える規模の災害にも対応できるよう対策を強化してほしい。 ・ 市バス・地下鉄を通勤や通学で利用する人を対象とした防災教室の開催や避難訓練の実施を検討すべき。 ・ 緊急事態が発生した時に利用者がすべき行動を周知してほしい。 ・ 車内外の非常用ドアコックの表示をもっと目立つようにすべき。 ・ 車両火災などに備えた防火対策を強化すべき。 ・ 車内カメラや駅構内カメラの増設はよい取り組みであり、進めてほしい。 ・ 車内カメラは工事が不要な灯具一体型のものを導入すべき。 ・ 車内での犯罪を抑止するため、さまざまな対策に取り組んでほしい。 ・ 女性専用車両のセキュリティ強化に取り組んでほしい。
交通局の 考え方	市バス・地下鉄を安全に、安心してご利用いただけるよう、地下鉄構造物の耐震補強や地下鉄車両への車内カメラ設置などの投資を進めるとともに、訓練などを引き続き実施し、災害対策やセキュリティ強化に取り組んでいきます。また、安全・安心に関するお客さまへの情報発信に努めていきます。

ウ バス車両（21 件）

ご意見の 要旨	・ 中型や小型のバスを導入してはどうか。 ・ フルカラーLED を採用し、行先表示装置の内容を充実させてほしい。 ・ 多くの人が着席できるバス車両を導入してほしい。 ・ 座席や内装は乗り心地の良さやデザインを重視し、工夫してほしい。 ・ 実績のあるメーカーで製造された車両の導入を進めてほしい。 ・ 車内に段差のないフルフラットバスを導入してほしい。 ・ 左後輪の歩行者巻き込み防止用タイヤカバーを採用してほしい。 ・ 混雑緩和のため、連節バスや2階建てバスを導入してほしい。 ・ 自動運転や無人運転のバスを導入してほしい。 ・ 車齢を基準として更新対象の車両を決めるのではなく、各種機器の状態を個別に把握し、状態の悪い車両から優先的に更新を進めてほしい。 ・ 廃車予定のバスを保存すべき。
交通局の 考え方	バス車両については、省エネ効果の高い車両への更新を計画的に実施するとともに、安全性の向上を図ります。また、バス車両に関する技術開発の動向などについて、情報収集に努めていきます。

エ 地下鉄車両（50 件）

ご意見の 要旨	・ 新たな技術を活用し、近未来にふさわしい斬新な車両を開発してほしい。 ・ 新型車両は実績のあるメーカーに製造してほしい。 ・ 東山線にも新型車両を導入してほしい。 ・ 各路線に特色ある車両を導入してほしい。 ・ さまざまな賞を受賞できるような高質な車両を導入してほしい。 ・ 新型車両の仕様を検討する際は、幅広く利用者の意見を聞いてほしい。 ・ アルミ製の車体を採用してほしい。 ・ 黄電など昔の車両を想起させるようなデザインにしてほしい。 ・ 既存の車両と同じデザインの車両を導入してほしい。 ・ 車内の静粛性を高めてほしい。 ・ 手すりや吊革、座席などの配置を工夫し、使いやすくしてほしい。 ・ 増結、車体の拡幅、扉のワイド化、扉付近のスペース拡大、フリースペース増設や折りたたみ座席の導入などにより、混雑緩和を図ってほしい。 ・ 座席のスタンションポールを標準装備とするなど、多くの人が着席できる車両としてほしい。 ・ クロスシートや柔らかい座席の導入など、乗り心地の良さを追求すべき。 ・ 安全性向上のため、車両間の貫通路には必ず仕切扉を設置すべき。
------------	--

	・車内案内表示装置を増設し、わかりやすい案内をしてほしい。 ・行先表示装置の表示内容をわかりやすくしてほしい。 ・車両の起動加速度を首都圏の事業者並みに高めてほしい。 ・地下鉄の車内にトイレを設置してほしい。 ・汚れが目立つため、地下鉄の車内や車体の清掃を徹底してほしい。 ・製造から 20 年程度経過した車両は、車内をリニューアルしてほしい。 ・車両の改造や更新の業務は、入札を行って車両メーカーに発注すべき。 ・車両や機器を更新する際は、最新技術を活用し、省エネルギー効果の高さや軽量さを追求するとともに、必要ない機能の削減なども取り組むべき。 ・新型車両を導入するよりも、既存車両の機器更新を実施し長期間使用するほうが経営に与える影響は小さいのではないか。 ・更新により不要となった車両は他事業者へ譲渡してほしい。
交通局の考え方	地下鉄車両については、安全・安心や快適性・利便性をはじめとして、環境負荷の低減や子ども・子育てのサポートといったさまざまな観点から検討を行い、時代の変化に伴うニーズに適切に対応できるよう、更新を進めていきます。また、地下鉄車両に関する技術開発の動向などについて、情報収集に努めていきます。

(2) 施策 2 快適性・利便性の高いサービスの提供 (400 件)

ア バスの施設 (11 件)

ご意見の要旨	・バスターミナルやバス停の改修や整備を計画的に進めてほしい。 ・風よけの仕切り、ドライミスト、デジタルサイネージなどの設置やトイレのリニューアルを進め、バスターミナルの環境改善を図ってほしい。 ・バスターミナルの乗り場の集約や新たなバスターミナル増設を検討してほしい。 ・名古屋駅バスターミナルへの案内ボランティアの配置や券売機設置、冷房能力の強化などの改善を進めてほしい。 ・バス停の屋根や風よけの仕切り、ベンチなどの設置、排水の改善などを進めてほしい。 ・バス停はバス停らしい見た目にしてほしい。 ・スマートバス停の設置を検討してほしい。
交通局の考え方	快適なバス待ち環境づくりのため、バスターミナルにおいて照明の LED 化やベンチの設置、上屋の塗装替えなどの環境改善を行うとともに、バス停留所の照明付標識や上屋、ベンチなどの整備・改修を進めていきます。

イ 地下鉄の施設（49 件）

ご意見の 要旨	・老朽化が目立つ駅から重点的にリニューアルや冷房化を進めてほしい。 ・駅のリニューアルを進め、これまでの印象を一新してほしい。 ・駅のリニューアルは、マスメディアを活用し大々的に PR してはどうか。 ・電球色 LED などを活用し、温かく愛着の持てる駅空間にしてほしい。 ・他事業者の事例を研究し、先進的でおしゃれな駅を目指してほしい。 ・駅をリニューアルするときは汚れが目立たないデザインを採用すべき。 ・駅のリニューアルは、レトロな遺構や意匠を残したり、あえてレトロな雰囲気演出したりするなどの工夫を凝らしてほしい。 ・外観のリニューアルではなく、経年劣化した箇所の徹底的な補修が先決ではないか。 ・老朽化した駅は高圧洗浄機などによる清掃を実施してほしい。 ・定期的な手入れや清掃を徹底し、清潔で快適な空間を保ってほしい。 ・今後もトイレのリニューアルを進めてほしい。 ・トイレはすべて洋式化するのではなく、和式トイレも残してほしい。 ・トイレの個室を増やしてほしい。 ・トイレは人通りの多い場所に設置し、防犯設備も充実させてほしい。 ・トイレの個室の空き状況がわかるシステムを導入してほしい。 ・ボランティアなどの協力を仰ぎ、トイレの清掃頻度を上げてはどうか。 ・目的外利用による治安悪化などが懸念されるため、多機能トイレの拡充は不要ではないか。 ・全ての駅でホームの冷房化を行ってほしい。 ・駅ホームの冷房化では、マナーの悪い利用者が長居することのないよう留意してほしい。 ・曲がり角で人が衝突する危険性の高い通路は安全対策を講じてほしい。 ・地下鉄の駅の出入口や改札の数を増やし、地上から乗り場までの距離を短縮するなど、動線を改善してほしい。 ・駅の改札口を 1 か所に集約してはどうか。 ・高齢者や子連れの利用者のために駅のベンチを増やしてほしい。 ・地下鉄が駅ホームに進入するとき吹込む強風への対策を講じてほしい。 ・駅の救護室の整備を進めてほしい。
交通局の 考え方	明るく清潔感のある、快適・便利な駅空間を目指し、お客さまからのご意見や他事業者の事例なども踏まえ、駅のリニューアルやリフレッシュに取り組んでいきます。 駅構内トイレのリニューアルについては、誰もが快適にご利用いただけるよう、すべての便器の洋式化や温水洗浄便座の設置を進めていきます。 駅ホームの冷房化についても、快適にご利用いただけるよう、駅ホームへの冷房設備の整備を進めていきます。

ウ バリアフリー（24 件）

ご意見の 要旨	・利用者の動線を考慮した上で、バリアフリー化を行ってほしい。 ・駅のエレベーターやエスカレーターを増設してほしい。 ・エレベーターのかごを大きくし、多くの人に乗れるようにしてほしい。 ・バリアフリーの観点から駅構内での動く歩道の整備を検討してほしい。 ・駅の階段にはスロープも設置してほしい。 ・改札から地上までの途中でエスカレーターが途切れている経路がある場合は、わかりやすく注意喚起してほしい。 ・エレベーターの整備を進めると、運動不足による健康問題を誘発するのではないかと。 ・ホームと車両の段差解消を進めてほしい。 ・ホームの先端部のみではなく、ホーム全体のかさ上げによって車両との段差を解消すべき。また、かさ上げ時に撤去された乗車位置を示す点字ブロックは元どおり設置してほしい。 ・視覚障害者誘導用ブロックは、JIS 規格への統一を進めるとともに、ブロックの色は必ず黄色としてほしい。 ・地下連絡通路を整備する際は、交通局が視覚障害者誘導用ブロックの材質や色を指定し、規格や色の異なるものが混在しないよう留意すべき。 ・音響案内設備の案内は、階段の方向や改札口的位置を把握しやすい内容とすべき。 ・車いす専用の乗車スペースを設置したほうがよい。
交通局の 考え方	駅のバリアフリー化については、誰もが安心して快適にご利用いただけるよう、お客さまからのご意見などを踏まえ、他部局や関係事業者などと情報を共有し、整備を進めていきます。 エレベーターの整備については、地上へのエレベーターが1つ整備されている駅のうち、高齢者や障害者の方をはじめ多くのお客さまが向かう方面にエレベーターがない駅の中から整備を進め、バリアフリールートの充実などを図っていきます。

エ 案内サイン（23 件）

ご意見の 要旨	・案内サインは、初めて訪れる人や観光客など誰もがわかりやすい内容となるよう工夫してほしい。 ・案内サインに表示する情報量を絞り込み、立ち止まらなくとも判読できるようにすべき。 ・新しいデザインの案内サインへの更新を進めてほしい。 ・乗る人と降りる人を明確に区分し、混雑緩和につながるような案内表示を検討してほしい。
--------------------	--

	・号車やドア位置、女性専用車両などの案内表示をわかりやすくしてほしい。 ・他路線に乗り換えるときに最も便利な乗車位置番号を案内してほしい。 ・色づかいを工夫し、駅構内の駅名板を見やすくしてほしい。 ・バス停の時刻表や案内は文字を大きくしたり、ピクトグラムを用いたりしてわかりやすく表示してほしい。 ・バス停に系統番号や経由地、目的地を大きく表示するなどして、乗り間違いがないよう案内を工夫してほしい。 ・大きな文字の案内、色のついたゲートやタイル、床の誘導ライン、二次元コードの活用などにより、わかりやすく案内をしてほしい。 ・案内表示は日本語と英語表記のみを基本とし、多言語化は必要なものに限って行えばよいのではないか。 ・新しい案内サインより従来の案内サインのデザインのほうが好ましい。
交通局の考え方	文字や記号を大きく表示し、ピクトグラムや駅番号を活用することなどにより、わかりやすい案内サインとし、誰もが市バス・地下鉄を利用しやすい環境の整備を進めていきます。

オ 情報発信・マナー啓発（31件）

ご意見の要旨	・交通局の乗換案内（なごや乗換ナビ）をわかりやすくしてほしい。 ・なごやパレットなど紙の広報媒体の発行を続けてほしい。 ・紙媒体を電子データ化して交通局ウェブサイトなどで公開し、気軽にアクセスできるようにしてほしい。 ・多言語対応なども含め、戦略的な情報発信の具体策を示してほしい。 ・SNS の情報発信は、一般の人にも興味を持てる内容を投稿したり、利用者と双方向のやり取りをしたりするなどの工夫を凝らしてほしい。 ・沿線の魅力発信や利用促進にもつながるよう、SNS での発信内容や PR 方法を工夫してほしい。 ・テレビなどのメディアや SNS のインフルエンサーなどとタイアップし、多くの人の興味をひくような情報発信をしてほしい。 ・SNS を収益化し、収入源としてほしい。 ・PR や情報発信にはイラストではなく、写真を積極的に活用してほしい。 ・「標準的なバス情報フォーマット」について、地下鉄情報の整備やリアルタイム運行情報（GTFS-RT）の公開も検討してほしい。 ・「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報の整備にあたっては、障害のある人のアクセシビリティに配慮すべき。 ・利用者が不快な思いや怖い思いをすることのないよう、マナー啓発を徹底してほしい。 ・地下鉄車内の巡回を行い、マナー違反などを注意してほしい。
--------	--

	・ 整列乗車やドア周辺に固まらず奥まで詰めての乗車、優先席の利用マナーなどに関する啓発を重点的に行ってほしい。 ・ 駅のホームにモニターを設置し、マナー啓発動画を流してはどうか。 ・ マナーを守ったエスカレーターの利用が徹底されるよう、有効な対策や効果的な啓発を検討すべき。 ・ 不正乗車対策を強化すべき。
交通局の考え方	情報発信については、市民・利用者みなさまの声などを踏まえつつ、わかりやすい情報提供に取り組むとともに、多くの方々に興味・関心を持っていただけるような情報発信に努めていきます。 マナー啓発については、快適にご乗車いただけるよう、お客さまからのご意見などを踏まえてより効果的な手法を検討し、継続的に取り組んでいきます。

カ バスのサービス・案内（16件）

ご意見の要旨	・ バス停での乗り降りがしやすくなるように停車位置を工夫してほしい。 ・ 障害のある人が乗車したときは運転士から細やかな声かけをしてほしい。 ・ 委託営業所の職員も障害者に関する研修へ参加するようにしてほしい。 ・ 市バスの系統番号は、色分けや英数字表記などにより市外の人や観光客にもわかりやすいように変更してはどうか。 ・ 市バスの案内放送に他事業者の鉄道路線の乗換案内を加えてほしい。 ・ バスの車内放送の多言語化を進めてほしい。 ・ 往路と復路で場所が大きく離れているバス停や片方向のみに設置されているバス停を極力減らし、わかりやすくしてほしい。 ・ バスの現在位置を表示する装置をすべてのバス停に設置してほしい。 ・ 基幹2号系統は混雑時に前扉からの降車に時間を要して遅延することが多いため、中扉に機器を設置して中扉からの降車を認めてはどうか。 ・ バス車内のヘルプマークの案内ステッカーは、もっと目立つ位置に掲示してほしい。
交通局の考え方	市バスに不慣れな方をはじめ、誰もが安心して市バスを利用できるよう、バス車内への液晶式停留所名表示器の設置など、わかりやすく利用しやすい環境づくりを進めていきます。また、バスの安全性や定時性の確保に引き続き取り組んでいきます。

キ 地下鉄のサービス・案内（68 件）

ご意見の 要旨	・ 駅に掲示されている紙の時刻表を撤去しないでほしい。 ・ 必要性や実施時期を見極めつつ、旅客案内表示装置の増設や更新を行ってほしい。 ・ 文字の大きさや表示方法などを工夫し、旅客案内表示装置の表示内容をわかりやすくしてほしい。 ・ 車内案内表示装置の増設や更新を進めてほしい。 ・ 車内案内表示装置の文字の大きさなどを工夫し見やすくしてほしい。 ・ 他事業者の駅の駅ナンバリングや現在時刻など、車内案内表示装置の表示内容を充実させてほしい。 ・ 相互直通路線の車両には直通先の私鉄の全線路線図を掲出してほしい。 ・ 地下鉄の車内放送は以前と比べて改善されたと感じるが、他の接客サービスについても積極的に改善を進めてほしい。 ・ 音量や英語の発音などにも注意を払い、地下鉄の車内放送を聞き取りやすくしてほしい。 ・ 案内放送の多言語化を進めるとともに、多言語で案内する内容を充実させてほしい。 ・ 地下鉄のリアルタイム位置情報を配信するとともに、駅などのモニターで現在位置を表示してほしい。 ・ カメラなどを活用し、駅や車内の混雑状況をアプリやホームページで確認できるシステムを開発してはどうか。 ・ 温度調整の工夫や弱冷房車の設定により快適な車内環境を目指すべき。 ・ 地下鉄の車内に虫よけを設置してほしい。 ・ 女性専用車両を増やしてほしい。 ・ 女性専用車両の実施時間帯を全線で統一してほしい。 ・ 女性専用車両は女性優先車両に変更してはどうか。 ・ 女性専用車両を廃止や優先車両への変更を検討してほしい。 ・ 女性専用車両を設定する場合は LGBTQ の方にも配慮すべき。 ・ 男性専用車両を導入してほしい。 ・ 優先席の増設や高齢者・障害者・けがをしている人のための専用車両または優先車両の設置を検討してはどうか。 ・ 発車メロディを導入してほしい。 ・ 新幹線や高速バスとの乗換の便利さや混雑の少なさといった桜通線のメリットを幅広く PR すべき。 ・ 駅の名称や読み方を変更してほしい。
交通局の 考え方	地下鉄の駅や車内でのサービスについて、駅の旅客案内表示装置の更新など、わかりやすく利用しやすい環境づくりを進めていくとともに、市民・利用者のみなさまの声などを踏まえつつ、誰もが安心して利用できる環境づくりに引き続き取り組んでいきます。

ク バスの路線・ダイヤ（45 件）

ご意見の 要旨	・路線の新設などにより市バスの路線網を充実させてほしい。 ・市バスの路線を削減すべき。 ・長距離路線は廃止し、短距離路線を中心とした路線網に再編すべき。 ・都心部や最寄りの地下鉄駅に直通するバスを増発してほしい。 ・待たずに乗れる運行頻度への増発や終発時刻の繰下げを行ってほしい。 ・経路設定の工夫や車両運用の効率化、回送の営業運行、共同運行事業者との便数調整などにより、増発や利便性の向上を図ってほしい。 ・市バスの運行本数見直しは利便性が低下しないよう慎重に検討すべき。 ・運行間隔が大きく開いたり、偏ったりしないよう工夫してほしい。 ・誤乗車を引き起こさないよう、異なる方面のバスの発車時刻が近接しすぎないように工夫してほしい。 ・市バスと地下鉄や他の鉄道路線との乗り継ぎを便利にしてほしい。 ・バスターミナルの乗り場や停留所の位置は、地下鉄などとの乗換の利便性やわかりやすさに配慮して決めてほしい。 ・東山線と並行し、高品質なサービスを提供するバス路線を設定すれば、東山線の混雑緩和につながるのではないかな。 ・公共施設などの前まで乗り入れるなどして、バス路線の利便性を高めてほしい。 ・黒字路線は民間に任せ、住民福祉のために必要な路線を重視すべき。 ・利用者が少ないバス路線も維持してほしい。 ・利用者の意見や沿線の状況を分析して経路やダイヤを検討すべき。 ・携帯電話の位置情報やAI を駆使して最適な路線やダイヤを検討すれば、サービス品質を低下させず収益性を高められる。 ・自動車学校の送迎バスやショッピングモールのシャトルバスと地域巡回系統の機能統合を図ってはどうか。
交通局の 考え方	市バスの路線・ダイヤについては、利用動向の変化に対応した運行本数の見直しを検討するとともに、道路開通などに伴うバス路線の設定や運行経路の見直しなど、利便性の向上について検討していきます。 検討にあたっては、地域の要望なども踏まえながら、利用しやすい市バスとなるよう努めていきます。

ケ 地下鉄のダイヤ（58 件）

ご意見の 要旨	・運行本数を増やし、利便性向上や混雑緩和を図ってほしい。 ・混雑する区間のみ運行する区間便を運行してはどうか。 ・地下鉄の運行本数見直しは利便性が低下しないよう慎重に検討すべき。 ・可動式ホーム柵の設置により所要時間が増加することは避けてほしい。 ・スピードアップや急行運転の実施などにより、所要時間を短縮すべき。
--------------------	---

	・ イベント時の臨時列車や終夜運転の運行本数を増やしてほしい。 ・ 地下鉄同士の乗換がスムーズにできるダイヤにしてほしい。 ・ 乗換なしで目的地に向かうことができる市バスの路線を充実させるかわりに、昼間の地下鉄のダイヤを見直してはどうか。
交通局の考え方	地下鉄のダイヤについては、利便性に配慮しつつ、利用動向の変化を踏まえた見直しを行っており、今後もお客さまの利用動向や社会・経済情勢などを注視しつつ、運行本数の見直しなどを検討していきます。

コ キャッシュレス化（28 件）

ご意見の要旨	・ クレジットカード対応券売機の設置駅を拡大してほしい。 ・ マナカをモバイル化してほしい。 ・ 独自システムのマナカは廃止し、スイカを導入してほしい。 ・ QR コード決済やクレジットカードタッチ決済、顔認証改札などを導入し、キャッシュレス化を進めてほしい。 ・ IC カードを一日乗車券として利用できる機能を追加してほしい。 ・ クレジットカードタッチ決済利用時に自動的に上限額が設定され、一日乗車券の代わりになるような仕組みを導入してほしい。 ・ 定期券 WEB 予約サービスの導入後も、従来どおりの方法で定期券を購入できるようにしてほしい。
交通局の考え方	キャッシュレス化についてはさまざまな手法が展開されていることから、より利便性の高いサービスを提供することができるよう、具体的にどのような方法で実現させることが適当なのかについて、他事業者の動向や新たな技術開発の状況、費用対効果などを見極めながら、引き続き検討を進めていきます。

サ 乗車券（36 件）

ご意見の要旨	・ 他事業者の路線も利用できる一日乗車券やグループ客向けの日乗車券を発売してほしい。 ・ 2 枚の IC カードを持つのは不便なため、市バス・地下鉄と近鉄との連絡定期券を発売してほしい。 ・ 1 駅乗り越しできるサービスやフレックスタイム用通勤定期券など、通勤定期券のサービスを充実させてほしい。 ・ 料金の低廉化なども含め、公共交通の利用促進につながるような料金体系を検討すべき。 ・ 市バスは整理券方式の区間制料金を導入すべき。 ・ 地下鉄と名鉄を直通で利用する場合の料金の割引率を高くしてほしい。 ・ マナカポイントの還元率を高くしてほしい。 ・ コストの縮減に努め、料金値上げを避けてほしい。
--------	---

	・不便を強いられるよりも、料金値上げによってサービス水準が維持されるほうがよい。 ・料金の値上げやバリアフリー料金導入を検討してもよいのではないか。 ・短距離の値下げと長距離の値上げ、時間帯別割引の拡充、ドニチエコきっぷの適用日拡大などを検討してはどうか。 ・料金を値上げする際は、利用者の負担が大きくなりすぎないように配慮してほしい。 ・学生定期券は他事業者と比べてサービスが充実しているため、割引率を下げてよいのではないか。 ・マナカポイント制度の周知やオフピーク定期券の新設などによりオフピークの利用を促進し、輸送の効率化を図るべき。 ・割引やマナカポイントの加算、お得な定期券制度の創設などにより桜通線の利用促進を進め、東山線の混雑を緩和してほしい。 ・保護者同伴時に無料で乗車できる幼児の人数を2人までに制限すべき。
交通局の考え方	乗車券については、より利便性の高いサービスを提供することができるよう、引き続き検討を行っていきます。 料金については、事業の採算性、市民・利用者の負担、他事業者の動向などを考慮しながら決定していますが、利用動向やニーズの変化を踏まえつつ、今後も研究・検討を進めていきます。

シ その他のサービス（11件）

ご意見の要旨	・市バス・地下鉄の24時間運行を検討してほしい。 ・駅及び車内の清掃や消毒、換気などの感染症対策を徹底してほしい。 ・快適性、利便性は日々実感している。 ・無料（フリー）Wi-Fiのサービスを充実させてほしい。 ・マナカのポイント還元やチャージ券などのサービスをもっとPRすべき。 ・現行のマナカポイントよりもわかりやすく還元率の高い新たなポイント制度を導入し、店舗などでためたポイントを使えるようにしてほしい。 ・乗車回数が多い人を対象とした工場見学会や特別イベントの開催など、マナカポイント以外の乗車回数に応じた特典付与を検討してほしい。 ・改札機でマナカの残高不足となった時のエラー音を小さくしてほしい。 ・ICカードを利用した見守りサービスを実施してほしい。 ・桜通線の利用促進やオートチャージなどの広告を集客施設のビジョンで流してみてもどうか。
交通局の考え方	快適性・利便性の高いサービスのあり方については、お客さまからいただいたご意見などを参考とし、今後も他部局や関係事業者などと連携しながら検討を進めていきます。

(3) 施策3 まちの将来に向けた行動 (44 件)

ア まちづくり等との連携強化 (12 件)

ご意見の 要旨	・地域の意見を取り入れ、市民を巻き込む取組みが重要。 ・関係各所との連携を今一度強化し、サービス向上に努めてほしい。 ・地下鉄駅構内の余剰スペースを地域開放し、地域と連携したイベントなどを開催してはどうか。 ・栄駅を名古屋のハブと位置づけ、名古屋駅に引けを取らないような水準の整備を行い、利便性を高めてほしい。 ・栄駅や名古屋駅のホーム拡張や階段の増設などを行い、混雑緩和と利便性の向上を図ってほしい。 ・桜通線の利用促進よりも東山線の混雑緩和のために設備投資をすべき。
交通局の 考え方	栄駅の総合的な整備については、名古屋の顔としてふさわしい駅となるよう、駅施設の再配置や空間の有効活用、混雑緩和などに関する検討を進めていきます。 まちづくり等との連携については、市バス・地下鉄のイメージアップや効果的かつ持続的な利用促進につなげることができるよう、交通局と企業・大学・地域・他部局双方にメリットのある連携の取組みを進めます。

イ 環境負荷の低減 (22 件)

ご意見の 要旨	・公共交通機関の利用は化石燃料の使用抑制だけでなく、健康増進や交通事故のリスク低減にもつながる。 ・カーボンニュートラルに向けた交通局としての取組み方針を、具体的な数値目標などによって明示すべき。 ・企業から環境分野に用途を限った寄附や投資を呼び込むなど、環境都市としての PR につながる施策を検討してほしい。 ・環境負荷の低減よりも安全性や快適性、利便性を優先すべき。 ・照明の LED 化を進めてほしい。 ・燃料電池自動車や電気自動車、ハイブリッド車の導入を進めてほしい。 ・非化石エネルギー自動車は、複数台導入したほうがまとまったデータを取得でき、恒久的な部品調達も容易になるのではないかな。 ・非化石エネルギー自動車のような静音性の高い車両の導入を進めるのなら、接近を知らせる案内放送装置の設置が不可欠である。 ・乗り心地の改善に努めることがエコドライブにつながるのではないかな。 ・アイドリングストップの効果を検証し、効果がなければ廃止すべき。 ・公共交通利用の促進には、金銭的なメリットの PR や写真を活用したイメージアップ戦略が重要。 ・学校や福祉施設などでのバスの乗り方教室の開催を増やしてほしい。
------------	--

交通局の考え方	環境負荷の低減については、関係する部局などと連携を図りながら取り組んでいきます。 非化石エネルギー自動車の導入については、様々な課題があるため、コスト面、運用面の両面から検証を行い、今後の導入について検討していきます。また、エコドライブについては、研修などを継続的に実施し、環境負荷の低減を目指していきます。
---------	--

ウ 子ども・子育てのサポート（10 件）

ご意見の要旨	・子ども・子育てのサポートは、はやり流されることなく、原点に立ち返って子どもだけでも安心して利用できることを重視すべき。 ・ファミリー優先車両の設定や小さな子どもを連れて乗車しやすい雰囲気づくりに取り組んでほしい。 ・車内の座席配置の工夫やベビーカースペースの増設、エレベーターの整備など、ベビーカーを利用しやすい環境の整備を進めてほしい。 ・気軽に利用できるよう、市バス乗車時のベビーカーの固定は、他事業者のように保護者が行うようにしてはどうか。 ・子ども向け特設サイトは、他事業者のような質の高いものを目指すとともに、ハッチーキッズクラブとの差別化やレトロでんしゃ館などとの連動企画なども検討してほしい。 ・子ども・子育てのサポートをクローズアップする必要性を感じない。
交通局の考え方	子ども・子育てのサポートについては、ベビーカーやお子さま連れで利用しやすい環境づくりに努めていくとともに、子ども向け特設サイトでのお子さまが楽しめるコンテンツの提供など、市バス・地下鉄に親しんでいただけるような取り組みを進めていきます。

(4) 施策4 持続可能な経営の確立（128 件）

ア 広告料収入の確保（28 件）

ご意見の要旨	・広告料収入の増加を目指し、さまざまな販売促進策に取り組むべき。 ・企業のニーズを捉えた広告募集や新技術を用いた広告媒体の展開などを積極的に行ってほしい。 ・バス車内の液晶式停留所名表示器への広告掲載や広告枠の増設などにより、収入増加を図ってはどうか。 ・バス停のネーミングライツによる収入確保を検討してはどうか。 ・車内や駅のコンコース、ホームや可動式ホーム柵などへのデジタルサイネージ広告の設置を進めてほしい。 ・車内のデジタルサイネージでは、ニュースや天気予報、交通局のPR動画やテレビ局のキャラクターが登場するコーナーなどを放映してほしい。
--------	---

	・車内の美観維持やデジタル化の進展を踏まえ、車内広告の掲出位置の変更や廃止を検討すべき。 ・赤十字や国連機関など公共の福祉のための広告を積極的に掲出すべき。
交通局の考え方	広告事業については、市バス・地下鉄の施設や車両等を有効活用し、既存媒体の販売促進やデジタルサイネージ広告の拡大などを通じて、広告料収入の確保に努めていきます。

イ 資産の有効活用・寄附金収入の確保（23 件）

ご意見の要旨	・省力化・効率化は重要だが、収入増加策が最重要課題である。 ・民間企業などと連携し、駅やバスターミナルのさまざまな空間への店舗設置などの有効活用を進めてほしい。 ・カフェやコンビニなどの店舗や自動販売機を充実させてほしい。 ・東山線高架下や名城工場跡地の開発は、周辺地域との調和を考慮しつつ、さまざまな活用策を検討してほしい。 ・廃車した車両の売却を積極的に行い、収入増加につなげるべき。 ・クラウドファンディングやふるさと納税などを積極的に進めるとともに、より気軽に寄附ができる仕組みが構築されるとよい。 ・地下鉄運転体験や寄附者の氏名を駅に掲示するなど魅力的な返礼品を用意し、寄附金収入を増やすべき。
交通局の考え方	資産の有効活用については、引き続き、駅などの特性に応じた店舗等の設置を進め、利便性の向上と収入増加に努めていきます。 寄附金については、交通局独自の返礼品の強化などにより、魅力的な返礼品を用意し、収入増加とイメージアップに努めていきます。

ウ 利用促進（29 件）

ご意見の要旨	・単なる移動手段ではなく、市バス・地下鉄の利用自体が目的となるような取組みを進めるべき。 ・利用促進やイベントはターゲットを絞るのではなく、すべての年代を網羅できるように幅広く展開すべき。 ・キャラクターや著名人、テレビ番組、市民などとコラボした企画やイベントを実施し、利用促進やイメージアップにつなげてほしい。 ・観光客向けの利用促進は、他の交通事業者や観光施設、旅行代理店などとタイアップするとともに、名古屋ゆかりの人物をポスターに登場させるなど PR 方法も工夫すべき。 ・子ども向け催事、他事業者との共同企画、季節感や名古屋らしさを感じる催しなど、さまざまなイベントを積極的に開催してほしい。
--------	--

	・ヒラメキさんぽでバス停を起終点とするコースを設けるといったように、「市バスで推し活！」のような取組みでは、市バスで出かける必然性を PR すべき。 ・観光施設の入場券やなごやめしの食事券をセットにしたきっぷを発売し、周遊しながら観光できるようにしてほしい。 ・スタンプラリーのような周遊型企画やデジタルスタンプラリーを積極的に展開してほしい。 ・福祉特別乗車券向けの利用促進策や、なごや得ナビ特典の定期券利用者への対象拡大なども検討してほしい。 ・定期券のお得さを PR するなど、需要喚起につながる取組みを行うべき。 ・地元スポーツチームとコラボしたきっぷを発売してほしい。 ・グッズの発売は今後も積極的に行ってほしい。 ・保存車両を増やし、イベントなどに活用してほしい。
交通局の考え方	利用促進については、市バス・地下鉄を利用してお出かけをする楽しさや魅力を感じていただけるよう、お客さまのニーズなどを分析し、より効果的な利用促進策を展開していきます。 また、市バス・地下鉄への理解と愛着を深めていただけるようなイベントの開催などの企画についても、機会を捉えて引き続き実施していきます。

エ 事業運営の省力化・効率化（34 件）

ご意見の要旨	・業務の省力化・効率化は、安全・安心に十分配慮してほしい。 ・リニューアルなどに多額の事業費をかける一方、利便性低下につながるコスト削減策も散見されるため、取組みのバランスを見極めてほしい。 ・経費削減を目的とする管理委託の拡大は、委託先の労働者の賃金低下といった影響が予測されるため、実施すべきでない。 ・バス運転士の不足が叫ばれるなかで、管理委託の拡大は実現できるのか。委託拡大を続ければ、公営事業者である意味がなくなる。 ・管理委託の拡大よりも、民間事業者へのバス路線の移譲を進めるべき。 ・車両や線路のトラブルの増加が懸念されるため、車両の検査周期の延伸や保線業務の効率化は慎重に検討すべき。 ・規格統一による部品の共通化や可動部分の削減などにより、部品の購入や保守に要する費用の縮減と作業の効率化を図るべき。 ・遠隔で対応できるシステムの整備や改札などの駅施設の配置を工夫することで、人員を削減できるのではないかな。 ・駅の無人化は絶対に避けてほしい。 ・鶴舞線への自動列車運転装置（ATO）や定位置停止装置（TASC）の導入やワンマン運転の実施を検討すべき。
--------	--

	・市営交通資料センターの一般開放を終了するのであれば、資料のデジタル化による WEB 上での資料の公開や名古屋市図書館を通じた資料の貸出、レトロでんしゃ館での閲覧、期間限定の特別公開の実施など、貴重な資料を今後も閲覧できる方策を検討してほしい。 ・市バスの独立採算はあきらめ、地下鉄のフィーダーとしての機能を強化することで利便性の向上を図ってはどうか。 ・不採算路線などに対する財政支援の確保を進め、安直な路線廃止は絶対にしないでほしい。 ・バス路線を廃止する場合の基準を明確化するとともに、利用の少ない路線については収益力を上げるための計画を策定してはどうか。
交通局の考え方	業務の省力化・効率化については、安全の確保を前提とし、社会の動向などを見極めながら取組みを進めていきます。 また、市営交通資料センターのあり方については、引き続き検討を行っていきます。

オ 人材の確保・職員力の向上（14 件）

ご意見の要旨	・安定的な人材確保のための具体的な方策を計画に示すべき。 ・高齢者や障害者、就職氷河期世代の採用の強化や民間からの人材登用、職員採用や勤務形態の柔軟化などにより、中長期的な視点で人材確保と育成を進めてほしい。 ・バスの運転士不足に対応するため、給与面の待遇改善や雇用の安定性を担保することが必要ではないか。 ・バス路線の乗継を改善し、重複路線を廃止するなどの効率化を進めることが、運転士不足の解消につながるのではないか。 ・労働力人口の減少に対応できるよう、地下鉄の無人運転を検討すべき。 ・直営と委託営業所の枠を超えた競技会や表彰・給与制度の仕組みを構築し、バス運転士のモチベーションや能力の向上に努めてほしい。 ・デジタルトランスフォーメーションの専門部署を設置してはどうか。 ・規則や訓練で縛るだけでなく、職員の個性や特性を尊重し、職員の裁量による柔軟な対応ができるような環境づくりも重要。 ・職員の高齢化が進むなかで安定した事業運営を続けるためには、しっかりとした教育が重要。 ・接客サービスの向上には、民間企業との人事交流や市民が職員のサービスや対応をチェックできる仕組みが必要。
交通局の考え方	人材の確保・育成については、安定的な人材確保のための取組みを実施していくとともに、社会の動向などを見極めながら、人材の育成や活用に関する検討を進めていきます。

3 その他（80 件）

（1）交通施策・交通体系（52 件）

ご意見の 要旨	・桜通線や上飯田線などの路線の延伸を検討してほしい。 ・新たな路線の建設を検討してはどうか。 ・新たな鉄道路線や LRT を整備してほしい。 ・実現が見込めない路線は建設予定から外してはどうか。 ・公共交通網の維持・充実や公共交通の利用促進は、まちづくりの取り組みとして、さまざまな主体と連携し、市全体で取り組む必要がある。 ・バスレーンの増設や専用レーン化を進め、安全性や定時性の向上、輸送力の強化を図ってほしい。 ・バスレーンは慣れない人には運転が難しい。バスレーンがあってもルールを守らない人がいるためもったいない。 ・メーグル、ゆとりーとライン、SRT との連携強化が必要であり、運営も交通局が担うことが望ましい。 ・ターミナル駅での他事業者の路線との乗換を便利にしてほしい。 ・柳橋駅の設置やささしまライブのアクセス改善などを検討してほしい。 ・関係機関と連携し、乗換通路や動く歩道の新設など、名古屋駅周辺の利便性向上を進める必要がある。
交通局の 考え方	今後の地下鉄建設については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした乗車人員の減少やエネルギー価格の高騰などにより地下鉄事業は非常に厳しい経営状況となっており、営業路線の運営に支障をきたすことのないよう、社会・経済情勢、需要及び採算性について、慎重に見極める必要があると考えています。 他部局や関係事業者の所管する事業について情報共有を図るとともに、他部局や関係事業者等において検討されている事業のうち交通局が関連する事業については、連携しながら検討を進めていきます。

（2）その他（28 件）

ご意見の 要旨	・関係する市の部局と情報を共有し、連携して迅速に対応できる仕組みづくりを進めてほしい。 ・高齢者や車いす利用者の外出促進のため、デマンド交通や配車アプリの活用、タクシー利用券の補助などの施策を検討すべき。 ・敬老パスの取得や更新を簡略化する方策を検討すべき。 ・交付対象や利用者負担、回数制限のあり方なども含め、敬老パスや福祉特別乗車券について多角的な観点から見直しを検討してはどうか。 ・市バス・地下鉄の敬老パス利用の落ち込みは、回数制限や対象交通の拡大が要因なのではないか。
------------	---

	・子どもに専用のマナカを配布するなど、幼い頃から市営交通に親しむ環境づくりが必要。 ・メーグルのような周遊バスの増設やメーグルへのオープントップバスの導入などにより、観光地としての名古屋の魅力を高めてほしい。 ・東山公園のような遊戯施設扱いのミニ鉄道や観光船を市内の観光名所で運行してほしい。 ・地下鉄駅での住民票の写し等の申請・交付取り次ぎサービスの拡大や図書館の返却ポスト設置などを検討してほしい。 ・駅周辺の治安をより良くするための活動を進めてほしい。 ・民営化して経営の効率化を図って赤字体質から脱却し、将来の負担となる建設費を早く償還してほしい。
交通局の考え方	他部局や関係事業者の所管する事業については、情報共有を図るとともに、他部局や関係事業者等において検討されている事業のうち交通局が関連する事業について、連携しながら検討を進めていきます。